

城山庭球場のクレーコートでのローラー掛けの仕方

雨上がりの後に使用する場合は、使用前にコート状態を確認し下記の要領でローラー掛けを行う

1. コート状態の確認

- ローラーを掛けることができるか？
 - 見た目(目視)の判断とコートに入り、足で確認
 - コートへ入る時、軟弱部分(この部分は軟弱だと見た目で感じる事が大事)は足跡が付かないようにそっと入る
 - 足跡が付くようなら、ローラー掛けはできない
→コートは使用できない

2. 水取り

- 水溜りがあっても水を取ればローラー掛けが出来るような場合
 - 水取りはスポンジ(またはタオル等の布)を水溜りの上に置く。それをひっくり返して水を吸い取る。吸い取ったスポンジをバケツに絞り、水を出す。
 - スポンジは引きずらない(土が掘れる)

3. 砂入れが必要かを判断する

- 少々軟弱部分や水たまりの跡の部分を中心に砂を均一に撒く
 - ローラーにコートの土が付くようなら全体に撒く(一輪車で砂を運ぶ時、タイヤ跡が付かないような場所を通る)

4. 砂を均一にするためブラシ掛けをする

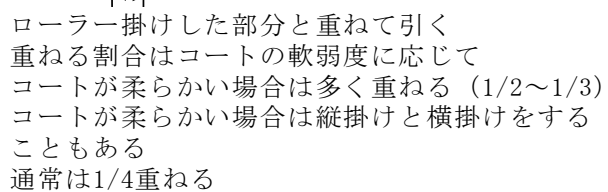
- 砂の湿り具合によりブラシに砂がついて砂が無くなる場合があるのでその場合はもう一度軟弱部分等に上手に均一に砂撒きし、ブラシ掛けはしない

5. ローラー掛け

- 2人または3人でローラーを引く(ゆっくりとスピードを出さない→スピードを出すと事故につながる) **決して一人で作業しない。**
- ローラーを引く人は**ローラーの取っ手の中に入らない。**(取っ手の内側だと万が一の時にローラーから離れられない。特にフェンス近くでローラーの取っ手やローラー自体に挟まれる恐れがある)
- 3人で引くときは、真ん中の人はフェンス近くに来たらローラーから離れる(万が一フェンスに挟まれそうになったら、左右の人がいるので逃げる事ができない→フェンス近くに来たら左右の人は取っ手を反対側にし、フェンスに激突しないようにする)
- 引くとき、つま先に力を入れすぎない。足裏全体で引くようにする(コートが掘れることがある)
- ローラーは前に引いた部分に1/3~1/4程度重なるように引く
- ローラーは真っすぐ引く。ベースラインを過ぎたら進行方向(コートの東から西へ掛けていく場合)の西側へ舵を切る。急に舵を切るとコートがねじれ(よじれ)傷む
- 特に冬場(コートが軟弱の場合)にはローラーに土が付着する場合がある。その土をその都度平スコップで落してローラー掛けを続ける(泥を落とす場所はフェンス際)

6. ローラー掛けが終了したらコート後方のフェンスにローラーをつけ、ローラー止めを置く。取っ手をフェンスに立て掛ける(取っ手が手前に倒れないか確認)

進む方向へ舵を切り、
戻す



ローラーおよびローラー止めの置き方

